



【アンケート調査の結果報告】 一般の方向け  
共働き夫婦における妻から見た夫の  
認識と育児の実態

自治医科大学看護学部  
角川志穂

# はじめに

- 2020年における共働き世帯は1,240万世帯であり、年々増加している。
- 子育て世代の共働き世帯の割合は、25～34歳において約64%、35～44歳では約68%と、いずれも半数以上を占めている(総務省統計局,2017)
- 共働きによるメリットには、家庭の経済的安定や仕事による充実感等がある。一方で、子育てと仕事を両立させることでの負担感が大きい。



- 核家族化が進み、共働き率が高まる現代において、女性の役割は多重となることが予測され、夫婦間での役割調整が必要である。

しかし

- 男性の育児休業取得率は12.6%と、女性81.6%と比較すると極めて低い。  
⇒育児中の共働き夫婦における夫の育児の実態を明らかにするとともに、その関連要因の検討が必要である。

# 研究目的

---

共働き夫婦の妻は、仕事と家事の両立をしていく中で、夫の思いをどのように認識しながら、仕事と家庭の両立をしているのかについて明らかにする。

また、日常生活における夫の育児の実態と、その関連要因について明らかにする。

# 研究方法

## 1. 対象

栃木県A市内の保育園および認定こども園を利用している共働き家庭の母親とする。

## 2. 調査方法

独自に作成した自己記入式質問紙調査とする。

対象となる13施設の園長に研究の趣旨を説明し、メールまたはFAXで研究協力への回答を得た。同意の得られた園長に対して、調査用紙を渡し、園児の母親への配布を依頼した。母親には、返信用の封筒を添付し、郵送を依頼した。

## 3. 調査期間

2020年9月～11月

# 結果

13施設1202名の母親に配布、630名から回答あり（回答率52.4%）  
無回答が多かった1名を除き、629名を対象とした（有効回答率99.8%）

## 対象者の属性

妻の年齢	人(%)
20代	54( 8.6)
30代	410(65.2)
40代	162(25.8)
50代	2( 0.3)

妻の雇用形態	
正規雇用	352(56.0)
非正規雇用	248(39.4)
自営業	29( 4.6)

夫の雇用形態	
正規雇用	563(89.5)
非正規雇用	17( 2.7)
自営業	47( 7.5)

子どもの数	
1人	65(10.3)
2人	429(68.2)
3人	120(19.1)
4人	12( 1.9)
5人	3( 0.5)

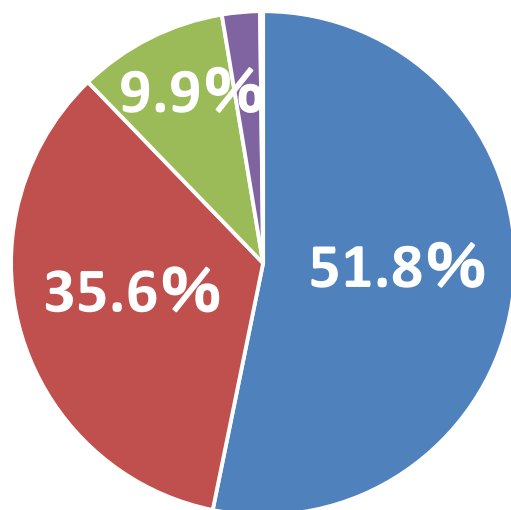


# 結果

## 妻から見た妻の仕事や役割に対する夫の考え

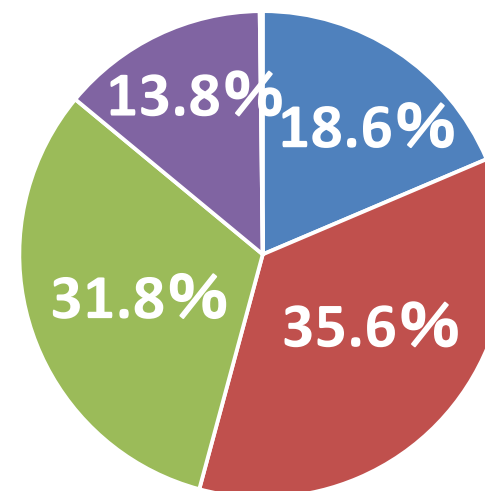
- 妻が働くことに対して、**約9割の夫は理解**を示していた。
- 一方、妻がフルタイムで働いていても、**半数の妻**は「家事や育児は母親の役割であると夫は認識している」と捉えていた。

妻の仕事に対する思いや意欲を理解している



- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 無回答

妻がフルタイムで働いても家事や育児は妻の役割であると夫は認識している



- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 無回答

N = 629



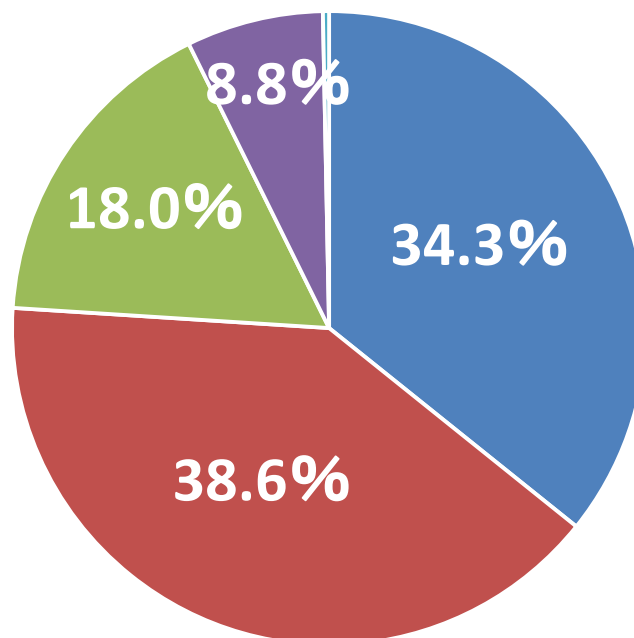
自治医科大学  
Jichi Medical University

# 結果

## 妻から見た妻の仕事や役割に対する夫の考え

- **約7割**の妻は、「子どもが病気になった時の看護は母親の役割であると夫は認識している」と捉えていた。

共働きでも子どもが病気になった時の看護  
は母親の役割である



- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- 無回答

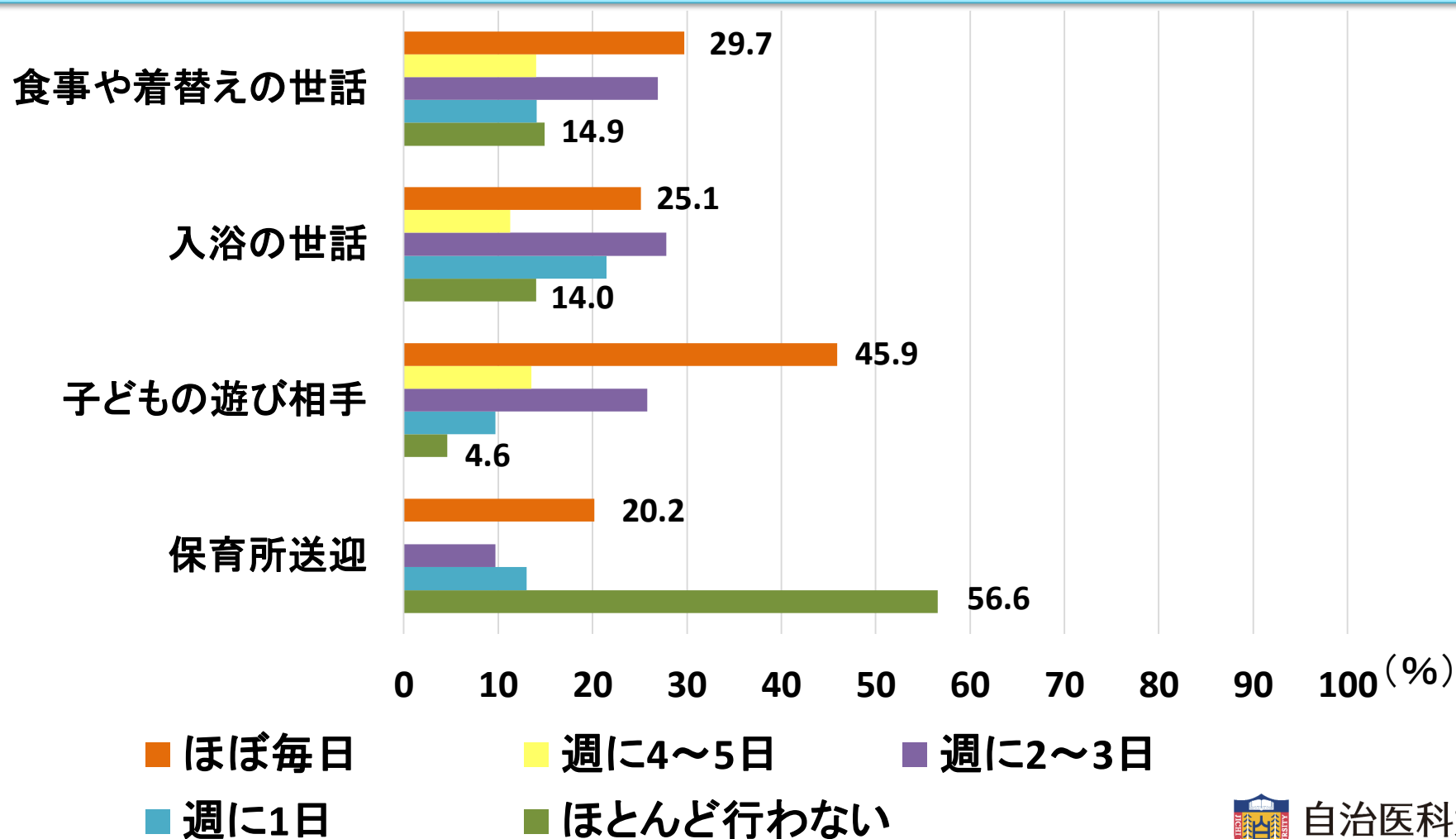
N = 629



# 結果

## 日常生活における夫の育児状況

- 夫が行っている育児でもっとも多かったのは、「**子どもの遊びや話し相手をする**」であった。  
「**保育所の送迎**」はもっとも少なかった。



N=629



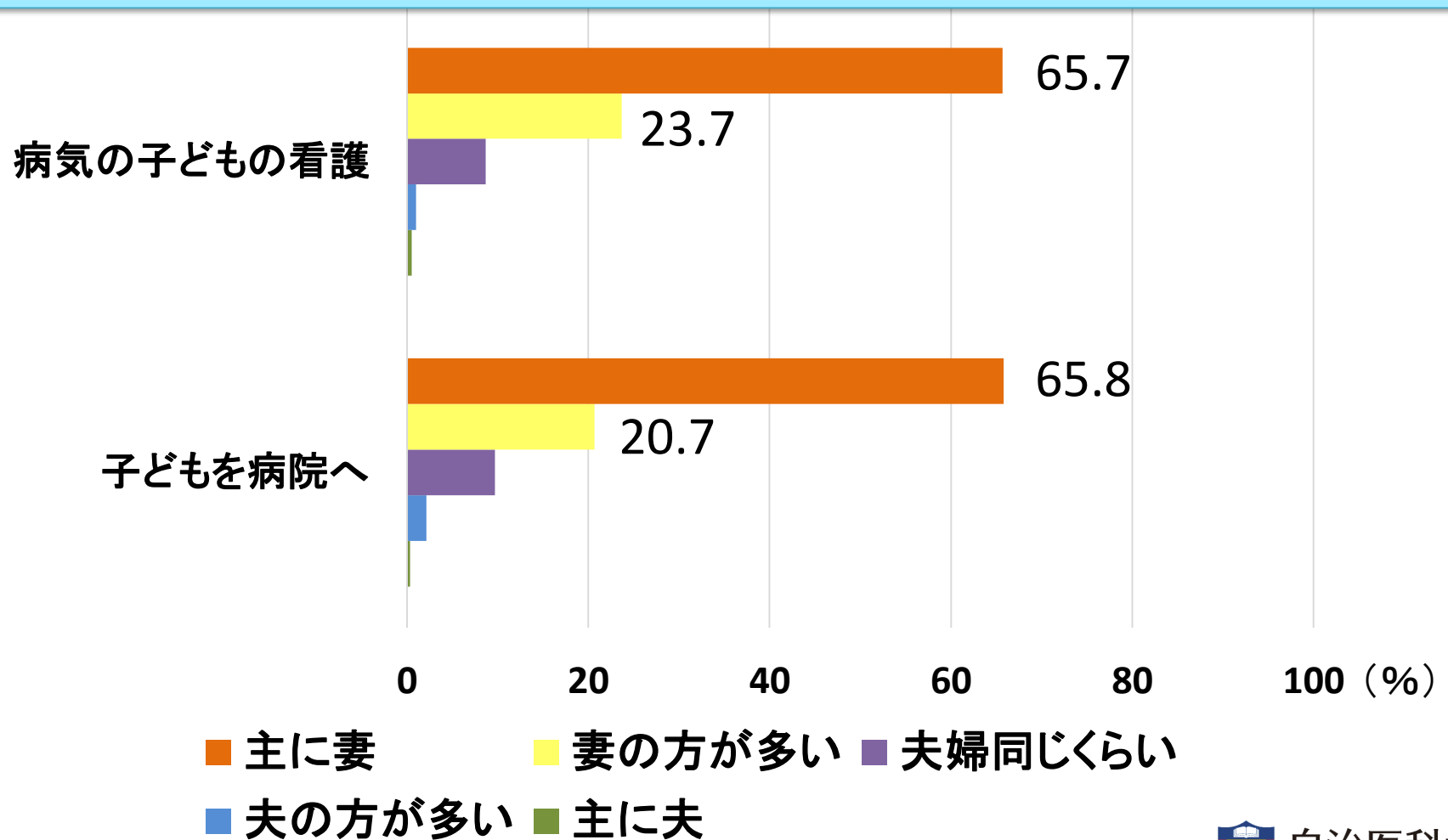
自治医科大学  
Jichi Medical University



# 結果

## 日常生活における夫の育児状況

- 子どもが病気になった時の対応では、「病気の子どもの看護する」「子どもを病院に連れていく」のいずれも**妻の方が多く**役割を担っていた。



■ 主に妻      ■ 妻の方が多い   ■ 夫婦同じくらい  
■ 夫の方が多い   ■ 主に夫

N = 629



自治医科大学  
Jichi Medical University

## 結果 夫の育児状況における関連因子

- 夫の育児状況には、「妻の就業形態」や「仕事への思いの理解」「家事や育児は妻の役割という夫の認識」「夫の職場環境」が関連していた。
  - 妻が非正規雇用より、正社員の方が、夫が日常の育児を行う割合が高い。
  - 妻の仕事への理解がある夫の方が、日常の育児を行う割合が高い。
  - 夫に「家事や育児は妻の役割」との認識があると、日常の育児を行わない割合が高くなる。
  - 「夫の職場環境」(上司の理解、休みの取りやすさなど)が充実していると、夫が日常の育児を行う割合が高くなる。
- 夫の育児状況と、「夫の通勤時間」「実父母や義父母への依頼度」「妻の職場環境」では、有意な差は見られなかった。

# 結果 日常生活における実母・義母への育児協力依頼について

日常生活において、育児協力を実母に依頼しない人は、全体の**53.6%**、義母に依頼しない人は全体の**69.3%**を占めていた。

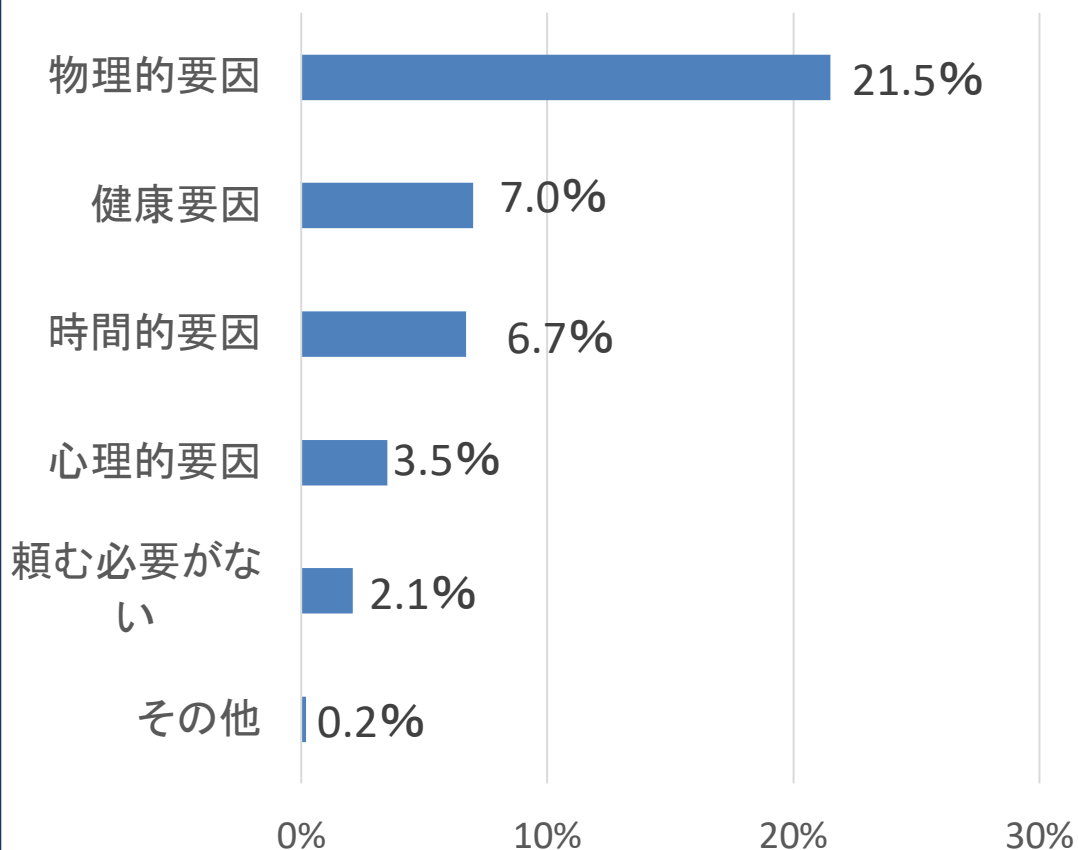
日常生活における実母・義母への育児の依頼状況 N=629 人 (%)

	いつも頼む	時々頼む	あまり頼まない	全く頼まない
妻の母親	81 (12.9)	211 (33.5)	144 (22.9)	193 (30.7)
夫の母親	49 (7.8)	144 (22.9)	124 (19.7)	312 (49.6)

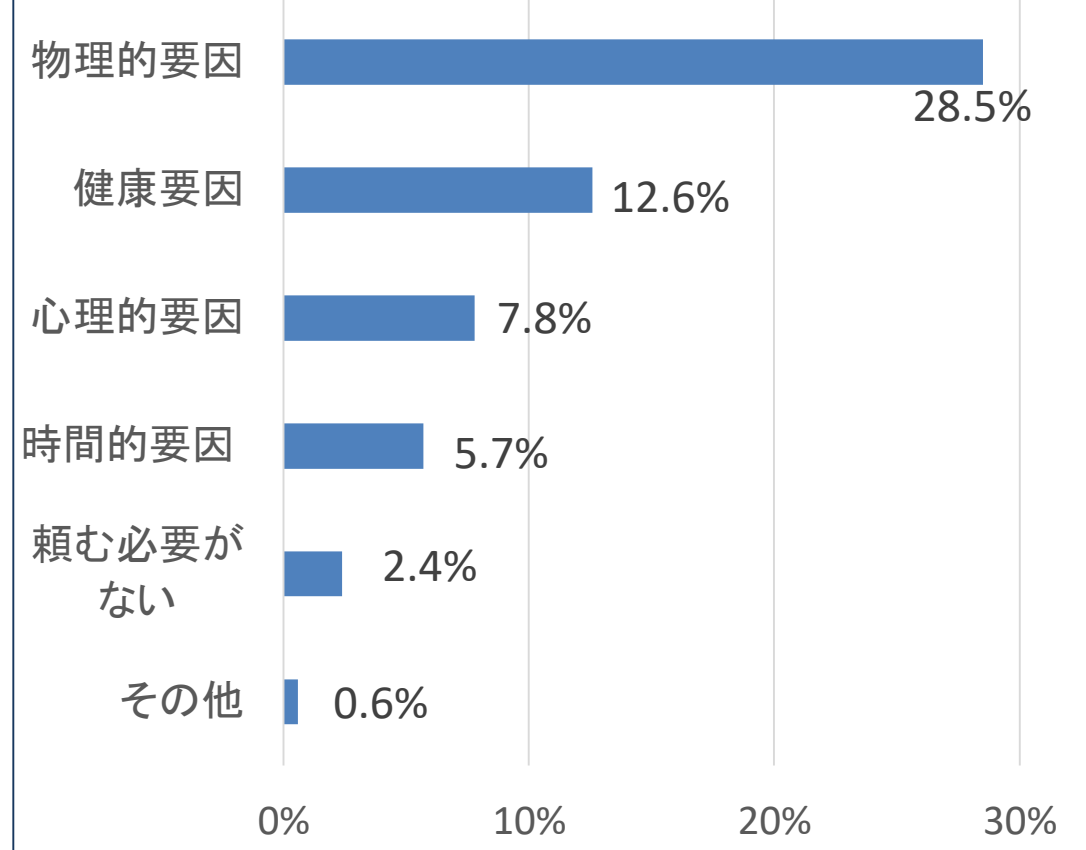


# 結果 実母・義母に日常の育児を頼まない理由①(グラフ)

実母に頼まない理由 (N=629)



義母に頼まない理由 (N=629)



# 結果 実母・義母に日常の育児を頼まない理由②(各要因の詳細)

- 日常生活において、育児を実母・義母に依頼しないもっとも多い理由は「**物理的要因**」であった。「**頼む必要がない**」はもっとも少なかった。
- 実母・義母に育児を頼まない理由の上位は両者とも、「**物理的要因**」「**健康要因**」であり、**約3～4割**を占めている。

## 【各要因の詳細】

- **物理的要因**⇒祖父母の家が遠い(県外)、交通手段(免許・車)がない、など。
- **祖父母の健康要因**⇒高齡、病気、入院中、他界、コロナ感染予防の為など。
- **時間的要因**⇒祖父母も就労中、他家族の育児や介護で忙しい、趣味がある、など。
- **心理的要因**⇒不仲、負担をかけたくない、頼みづらい、不安、育児方針が違う、など。
- **頼む必要がない**⇒祖父母に頼まずに夫婦でみることができ、実母か義母どちらかに頼むことができるなど。
- **その他**⇒金銭面の支援をしている、など。

# 結果 社会資源を活用しない理由

社会資源を活用しない理由（複数回答可） N=629人（%）

	料金が 高い	他人には頼み たくない	印象が 良くない 子どもが泣いた	親族が 預かる	その他
ファミリー・サポ ート事業	66 (10.5)	127 (20.2)	5 (0.8)	210 (33.4)	126 (20)
病児保育	59 (9.4)	59 (9.4)	3 (0.3)	209 (33.2)	217(34.5)
病後児保育	58 (9.2)	46 (7.3)	5 (0.8)	198 (31.5)	177(28.1)

- 約3割が、親族に預かってもらい、調整を図っていた。
- 約2割が、他人に頼みたくないという理由で社会資源を活用していなかった。
- 約2～3割が、「その他」の理由で社会資源を活用していなかった。

## 結果 ファミリーサポートを利用しない理由(その他)

- ファミリーサポートを利用しないもっとも多い理由は、「**必要な状況にない**」であった。
- 「手続き・利用方法」の詳細では、**利用したくてもできない状況があった。**→**利用できなかった状況の詳細は別紙参照**

### ファミリーサポートを利用しない理由 ※複数回答可(回答数126件)

必要な状況にない	61件
手続き・利用方法	41件
心理的要因	25件
その他	2件

### 【各理由の詳細】

- 必要な状況にない**⇒両親でみることができる、延長保育の利用、体調崩さない、など
- 手続き・利用方法**⇒登録が面倒、当日対応がない、人数多く断られた、利用方法がわからない、など。
- 心理的要因**⇒どうゆう人か不安、人見知り、コロナが心配、など

## 結果 病児保育を利用しない理由(その他)

- 病児保育を利用しないもっとも多い理由は「**必要な状況にない**」であった。
- 「手続き・利用方法」の詳細では、**利用したくてもできない状況があった。→利用できない状況詳細は別紙参照**

病児保育を利用しない理由  
※複数回答可(回答数217件)

必要な状況にない	123件
手続き・利用方法	65件
心理的要因	34件
その他	3件

### 【各理由の詳細】

- 必要な状況にない**⇒仕事を休め、両親でみることができる、体調崩さない、など。
- 手続き・利用方法**⇒登録・手続きが面倒、コロナで利用条件が厳しい、急な病気に事前予約は不可能、利用方法がわからない、等。
- 心理的要因**⇒病気の際は自分でみてあげたい、悪化しないか不安、など。



## 結果 病後児保育を利用しない理由(その他)

- 病児保育を利用しないもっとも多い理由は「**必要な状況にない**」であった。
- 「手続き・利用方法」の詳細では、**利用したくてもできない状況**があった。→**利用できない状況詳細は別紙参照**

病後児保育を利用しない理由  
※複数回答可(回答数177件)

必要な状況にない	114件
手続き・利用方法	46件
心理的要因	13件
その他	6件

### 【各理由の詳細】

- 必要な状況にない**⇒仕事を休め、両親でみることができる、体調崩さない、など。
- 手続き・利用方法**⇒登録・手続きが面倒、定員数が少なく予約とれない、家から遠い、利用方法がわからない、など。
- 心理的要因**⇒病気の際は自分でみてあげたい、こどもが不安になる、など。

# 考察

- 妻が働くことに対して、**約9割の夫は理解**を示していた。

⇒「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という性役割分業意識は、44.6%の男性において未だ根付いている(内閣府男女共同参画局,2017)。  
本調査の共働き夫婦では、56%の妻が正規雇用で、9割が2人以上の子どもを有しており、妻が働くことに夫の理解が得られていた対象者であったと言える。

- 妻が「正規雇用」で「夫が妻の仕事への理解がある」場合には、日常生活における夫の育児度合いが有意に高かった。

⇒妻が正規雇用で仕事への理解が高い夫においては、育児を行う頻度が高く、夫婦で家事と育児を調整していると言える。

# 考察

- 「夫の休みが取りづらい職場環境」において有意に夫の育児度合いが低かった。

⇒休みや早退の取りやすさは、夫の育児に関連していることが明らかとなり、**男性の職場環境の改善が必要**である。

- 子どもが病気のときの対応では**約7割の家庭で「主に妻」**であった。
- 「妻がフルタイムでも、家事や育児は妻の役割であると夫が認識している」場合、有意に夫の育児度合いが低かった。

子どもを持つ正規従業員の共働き夫婦において、家族成員の健康問題の切迫した問題が生じた際に、男性の方が仕事を優先する（小堀，2010）。共働き夫婦の育児の協働には、「公平性の調整」が構成因子の1つとして含まれている（梅田，2018）。

⇒女性の社会進出が進む現代では、夫婦のいずれかに育児が偏らないような夫婦間の調整や、社会資源の活用の充実が重要である。

# 考察

- 日常生活において、育児を実母・義母に依頼しないもっとも多い理由は「**物理的要因**」であった。「**頼む必要がない**」はもっとも少なかった。
- 育児を実母・義母に頼まない理由の上位は両者とも、「**物理的要因**」「**健康要因**」であり、**約3～4割**を占めている。

⇒育児を実母・義母に依頼しない家庭の約3～4割が、日常生活における育児を「頼まない」ではなく、「**頼めない**」状況であると言える。

- 社会資源(ファミリーサポート・病児保育・病後児保育)を利用しないもっとも多い理由は「**必要な状況にない**」であった。
- 社会資源を利用しない理由の「手続き・利用方法」の詳細では、**利用したくてもできない状況があった**。

⇒社会資源を「利用しない」ではなく、利用したい状況になった時に、「**利用できない**」状況もあると言える。

# 結論

- 共働き夫婦の約9割の妻は、夫が仕事について理解してくれていると感じていた。
- 半数以上の妻は共働きであっても、家事や育児、子どもが病気の時の対応は妻の役割であると、夫が認識していると感じていた。
- ほぼ毎日子どもの「食事や着替えの世話」や「入浴の世話」をしている夫は、約3割であった。
- 子どもが病気になった時の対応は、約9割の夫婦において、妻の方が多く担っていた。
- 夫の育児の実態に関連していた要因には、「妻の雇用形態」「妻の仕事に対する理解」「家事や育児は妻の役割である」という夫の認識」「夫の職場環境」が挙げられた。

# 結論

- 日常生活において、育児協力を実母・義母に依頼しない人は全体の約5～7割であった。
- 育児協力を実母・義母に依頼しない理由の上位は両者とも、「物理的要因」「健康要因」であり、約3～4割を占めており、頼みたくても頼めない状況にあった。
- 社会資源（ファミリーサポート・病児保育・病後児保育）を利用しないもっとも多い理由は「必要な状況にない」であった。
- 社会資源が必要な状況になった時に、利用しない理由でもっとも多いのは、「手続き・利用方法」であり、利用したくてもできない状況があった。

# お問い合わせ先

【本研究に関する問い合わせ先】  
自治医科大学 看護学部 母性看護学  
角川 志穂  
[sumikawa@jichi.ac.jp](mailto:sumikawa@jichi.ac.jp)

